

## 研究テーマ

### 伝え合い交流する楽しさに気付く指導の工夫

提案者 齋藤博伸

## I 研究テーマについて

### 1 テーマ設定の理由

生活科の内容（8）伝え合い交流する活動は、平成20年の学習指導要領の改訂で新たに新設された内容である。これは、伝え合い交流する活動を手段として授業で扱うことにとどまらず、活動そのものを目的としている。人間関係が希薄となっている社会問題、確かな学力を身に付ける上で効果が実証されている協同的な学習等から、誰とでも伝え合い交流することができる能力や態度の育成が低学年においても必要不可欠である。伝え合い交流する活動は、人と人のつながりをより一層深める上で大切な役割を果たすものである。また、その楽しさを十分味わわせることで、児童の中に、情報の交流そのものが、日常化され、生活科はもとより、様々な学習活動に発展していく可能性がある。



生活科の活動は教室内でとどまることなく、家庭や地域へと広がっていく。児童は、活動の振り返りから得た様々な出来事を他者に伝えようとする。これは、他者に伝える活動によって、自分自身の達成感や成就感を分かち合いたい現れなのであろう。一方で、聞き手は、話し手の体験の素晴らしさや、それを伝えてくれたことへの感謝の気持ちを表す。このような双方向の交流によって、話し手も聞き手も伝え合い交流する楽しさに気付くと考えられる。このことは、学校研究主題のサブテーマである「思考力・判断力・表現力の育成とその評価」にも関わっている。この目標実現のためには、伝える内容・方法を聞き手に応じて絞り込んでいく指導が必要である。

今までの自分の授業実践から、伝え合い交流する活動を町探検と関連させると話し手と聞き手が双方向にやりとりすることが多く見られた。それは、町で働く人という視点で、情報を共有することを共通の目的としていたからだと考える。第2学年の発達の段階から、他者と目的を共通にし、学習を進めていくことに意欲を高めている現れなのであろう。しかし、情報を共有していく活動において、対話だけのやりとりにとどまっていることが多かった。児童がもつ情報を可視化し、双方向のやりとりが実現できれば、情報の価値に気付くことができると考える。

そこで、本研究では、児童が伝えたい情報を可視化し、情報の価値に気付くための指導について考えていきたい。そのためには、町探検における気付きを双方向に交流していくことに視点を当てていく。

### 2 テーマにせまるための方策

#### — 視 点 —

児童が町探検で気付いたことを友達と双方向に交流することで、伝え合い交流する楽しさに気付くようにする。

〈手立て〉児童が町探検で気付いたことを双方向に交流できるように、児童がもつ情報を可視化していく。情報を可視化するために、町探検カード等を作成し、聞き手に渡しながらか、町探検の様子を話すようにしていく。また、聞き手は、町探検カードを受け取り、質問していく。相互評価として、聞き手はありがとうメダル等を話し手に渡すことで、双方向の交流を可視化していく。

